

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471300214		
法人名	社会福祉法人 若葉		
事業所名	高齢者グループホーム「潮の香」		
所在地	尾道市因島中庄町字油屋新開4804番地		
自己評価作成日	平成26年1月15日	評価結果市町村受理日	平成26年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201		
訪問調査日	平成26年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来る限り地域に出て行き、地域行事にも参加している。利用者さんの家族との関わりが少なくならないよう、家族と交流出来る機会を積極的に作って行きたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人「若葉」の「はばたき」内にあるGH「潮の香」は開所13年目に入り充実した内容で支援に取り組んでいる事業所である。職員の阿吽の呼吸が利用者に反映され、完成されたケア内容が日常的に行われている。センター長とGH管理者の力強いリーダーシップが発揮され事業所内の雰囲気は落ち着いている。利用者は整容の乱れもなく、孤立することもなく一人ひとりがゆったり暮らしている様子だった。食事の様子も楽しそうだった。共用の場の安全管理も工夫され棚の固定もしっかりされていた。家族や地域との関係も信頼が保たれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所玄関に掲示し、職員は毎日確認を心掛けている。	潮の香 の地域に密着したサービスを支援する内容の理念が作られ、職員は常にその内容の確認をし、ケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域防災訓練や、ゴミ当番、道普請等の地域行事には、積極的に参加している。	防災等、地域の拠点として指定されその重みを認識し貢献できるよう取り組んでいる。小学校の運動会へ参加したり、公民館行事や祭りに参加し地域交流は双方向で協力体制が取られている。事業所の取り組みは積極的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	はばたき夏まつりでは、潮の香ファミリーとして、ご家族・職員も含めみんなで歌を披露した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者さんの状況や行事等は、写真のスライドショー等を利用し、説明・報告している。委員の方からは、地域の事等の情報を頂いて、行事計画等の参考にしている。	2か月に1回会議を行い、参加者から充実した意見や情報を提供して貰っている。会議で利用者の暮らしぶりの写真のスライドショーを行い実際の表情を見てもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者さんの更新時や、区分変更時には申請書を直接持参し、必要時には尾道市役所にも直接訪問している。	日常的には因島の総合支所へ出向き、実施指導などは尾道支役所へ行く。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等に参加し、全職員が理解して、身体拘束をしないケアを心がけている。どんな時も、自分一人で判断せずに、職員で話し合い、管理者が判断している。	身体拘束をしないケアについて、規模の大きな法人研修会を本部で行っている。シーボート研修でも色々な角度での拘束について勉強している。その教育を軸に基本を大切に、見守りを主体として、利用者ケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修においても、虐待には特に力を入れている。外部の人の目に触れる機会を少しでも多くするように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人研修では、毎年行っている。伝達研修も行い、法人研修に参加出来ない人にもケア会議等で話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書等で説明し、不安や質問にはお答えしている。看取りの方針も説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望等が上がった場合は、上司に繋ぎ、柔軟な対応を心掛けている。	家族会議で自然の会話の中から気持ちを拾うように心掛けている。利用者や家族と一緒に食事会などでも本音の部分を聞く事もある。まとまれば会議にかけて反映に向けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定期的に、潮の香運営会議・ケア会議を開いており、センター長代行や、管理者も会議に参加しており、職員の意見を直接聞ける機会になっている。	潮の香 会議で職員は希望、要望を率直に言える。自己の悩み、チームワークをうまく取り、お互いケアに支障が起らないような取り組みがなされている。はばたき 会議で管理者や潮の香代表が話し合い、意見の反映に向けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	センター長や代行もホームを訪れ、実態把握に努めている。職員間の人間関係も上手くいき、楽しく働ける職場作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内は回覧し、全職員が目を通していている。希望者は参加し、伝達研修を行っている。法人研修は、勤務時間を調整しながら、出来る限り参加調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	シーポートで、職員間の交流をはかったり、講演会も計画している。持ち回りで、研修会開催や、機関誌発行を行いながら、ネットワーク作りを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り利用者さんに寄り添い、不安を与えないように、笑顔でじっくりと話を聞くように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の気持ちに寄り添い、ご家族が求めていることにも柔軟に対応し、信頼関係をしっかりと作る様心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には、サービス担当者会議を設け、本人・ご家族ともしっかりと話をし、引き継ぎを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	言葉使いにも気をつけながら、一緒にテーブルを囲んで笑いあえる関係づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族の良い関係が継続できるよう、ご家族との連絡を密に取りながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の訪問時には、また来たいと思って頂けるようなおもてなしを心掛けている。	利用者の中にはクラス会に参加した人もあり、職員の積極的な支援がなされている。家族の人が友達を連れて訪問したり、友達が訪問した時には職員はおもてなしを大切に、次にまた来てもらえるような気づかいをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、パイプ役を務めながら、みんなが笑顔で生活出来るような支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	柔軟に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんの言葉や表情を見落とさない様に、連絡帳等を利用し、職員間で情報の共有を行なっている。	利用者の人格を大切にし、日常的にその人のサインを見逃さない取り組みをしている。利用者の思いや意見、暮らし方は家族の協力のもとで成り立っている。人格の尊厳維持を心掛けて支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや前ケアマネジャー、サービス事業者からの情報提供を受けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活を見ながら、自分で出来る事を少しでも行なって頂けるよう職員間で意識統一を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース担当者を決め、ケア会議等で意見交換を行っている。	家族に意見を聞き、月1回のケア会議で担当者から利用者の状態を聞き、周りの職員からの聞き取りもしてプランを立てる。モニタリング、アセスメントを大切にし、丁寧にプランを立てる。出来上がりを家族に伝える。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの記録は全職員が行い、連絡帳を使い見落としのない連携を心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業所からの応援が受けやすい日中の対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの生活の中で、地域の理容院に行ったり、ホーム以外の地域の人との会話を楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の主治医や家族と連絡を取りながらの対応を心掛けている。往診をしてもらう方もいます。	利用者のかかりつけ医を継続しているが、家族からの依頼があれば事業所の協力医療機関に変更したり、往診可能な医師に変更している。受診は家族対応を基本としているが事業所対応もしている。医師の意見や指導は職員は共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康チェックや気づきは看護師やケアマネジャーに相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は地域連携室や主治医と連携をとり、定期的な訪問を心掛け、担当者とも直接話し、関係づくり心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、当ホームの方針を説明させて頂いている。重度化した場合は主治医の先生に相談し今後の方針をご家族を含めて話し合い、ご家族に寄り添った支援を心掛けている。	看取りの経験をしている。職員は常に家族の気持ちを大切にしている。事業所の方針を伝えて医師と相談をし家族、事業所との方針のズレが起きない取り組みをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は、事前にマニュアルを作り会議でも話しあっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、定期的に行なっている。(2回/年)夜間時の対応もどうするかは職員間で意識統一している。地域の防災訓練にも参加し災害時は応援体制が取れるよう話しをしている。	消防署からの指導を受け避難経路確認や避難する手順を体験している。緊急時の連絡方法の確認をしている。地域の防災訓練の案内に参加したり、事業所と地域の双方向での応援体制の構築はなされている。スプリンクラーの設置も出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いと目線に注意して、利用者さんときちんと向き合って声かけするよう、心掛けている。	職員は人権や接遇についての研修を法人本部で受けている。研修した知識をケアに活かし人格尊重、誇りやプライバシーを保つ意識維持に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一度にたくさんの選択肢を提示し、利用者さんが混乱しないよう配慮しながら「～ませんか？」とかの声掛けも行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合った個別対応が、出来るように柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔感には気を配りながら、支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を、少しでもして頂いている。お茶碗を洗ったり、下膳も出来るだけ自分で行なう様にしている。	食事に対し自分の好みのものや希望を言う人もあるので添えるようにしてあげている。年間の行事食も楽しみ物となっている。食後の片づけをする人もあり、職員は個人の個性や取り得を良く把握していて、雰囲気が良い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に水分摂取を行なっている。その人の状態を見ながら、主治医と相談しながら行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けを行い、必要な方には支援を行なっている。入れ歯の方には夜間は外すように声掛けしているが、本人の様子を見ながら柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツの利用者さんも、一人でトイレに行かれ排泄されている。失敗して嫌な思いをしないように支援している。	日中はなるべくパットを使用し、タイミングをみてトイレ誘導している。自立して自力で自由にトイレに行く人もある。夜間も自分で行く人もある。失敗してもプライバシーを損ねないような支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックひょうを作成し、ご家族・主治医と相談しながら服薬調整している。食生活にも配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者さんの状況に応じて、ゆっくり入浴したりシャワー浴にしたりと、柔軟な対応をしている。	週2回の入浴となっているがその人の体調や気持ちの状況に応じて、臨機応変に対応している。声かけを大切に一人ひとりに合った入浴となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息を妨げないよう、他の利用者さんの歌やTVの音量には注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、一人ずつ管理させて頂いている。服薬開始時や変更後は特に注意して観察し、主治医・家族との連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さんの得意なことをみんなで話したり、一人ひとりの希望を聞きながら、柔軟に対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望を直ぐ実行することは難しい事もあるので、戸外に出かける時は支援体制を含めて計画しながら行っている。	利用者は、近くの保育所に出かけて園児と行事を楽しんだり、図書館を利用する人もあり、市民会館に行き地域の人と歌ったり、買い物に出かけたりしている。職員は希望に沿った支援を行っている。家の行事がある時家族の方と外出することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全ての方がお財布(お金)を持っている訳ではないが、本人・家族の要望を聞きながら支払いも支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さんの要望があれば電話をかけて差し上げます。(頻繁になり相手の迷惑になる場合は、対応を相談させて頂いています。)手紙が届けばお渡しし、読んで差し上げる事もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、みんなで楽しむ団らんの場として活用しています。壁の飾りや生花などで、季節感が味わえるよう配慮しています。	共用の場の季節に合わせた壁飾りは利用者や職員の共同制作で見事なちぎり絵だった。落ち着いた空間は清潔に保たれて、利用者の安心な生活が保持されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	東側の長椅子で、お話されたりテラスに出られたりとその時々で思いで過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんのお部屋はご家族の写真や使い慣れた物をそのまま利用しながら居心地の良い居室づくりを行なっている。	個人の個性に合ったゆったりした暮らしができる居室作りとなって、居心地よさそうだった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブル配置を変更し、伝い歩きでトイレに移動できるように工夫したりして安全な移動が出来るよう工夫している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時の夜間応援体制についての行動・対応を全職員が行えるように訓練を行っていく。	夜間災害時を想定しての訓練を一人ひとりが体験し実践力を身につける。	・夜間災害を想定して、定期的に訓練を行う。	1年
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。